

資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 東京-3-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

高松宮記念ハンセン病資料館長 大谷 藤 郎



「資料館だより」の
創刊にあたって

わが国の近代化百年の歴史は第二次大戦という間違いはありましたが、それを除けば史上かつてない繁栄への道であつたといえます。しかしそのような明の表面の裏側には数々の矛盾が隠されてきました。

その一つがハンセン病の歴史であります。

私は「高松宮記念ハンセン病資料館」が葬り去られてきたハンセン病の黒い歴史を過去の暗闇から掘り起こしこれからの日本の良心を示す場であつてほしいと願っています。そのためには資料館が私たち関係者だけの専有物として私物化さ

れてはならず、どのような立場の人であれ、自由に公開され、自由に発言でき、自由に批判し得る場でなければならぬと考えています。

この「資料館便り」がそのような交流のメディアとして育ててほしい、誰から



も発言自由であつてほしい、そして資料館を二十一世紀の「障害者も健常者も共に生きる社会」に向けての拠点として育てていただきたいと願っています。

小さいながらハンセン病の歴史と資料館について発表と交流の自由なメディア、「すべての人間の尊厳」以外の何者をも恐れないでモノ申せるメディアであることがこの「資料館便り」の抱負です。

どうかできるだけ多くの人々で育ててください。

「イギリス大使館」 ポイド夫人来訪

九月十六日、英大使夫人レディ・ポイドさん他二名が来館、村上園長よりハンセン病の医学的な説明を聞かれるとともに、三時間にわたつてリデルとライトの伝記を書くための資料調べと展示品を閲覧されました。



「ダミアン」像の 展示予定

資料館では埼玉県立近代美術館より「ダミアン」

像「舟越保武作」を借用して十一月、十二月の二ヵ月間、館内で展示する予定です。

二カ月で二千六百人 多彩な来館者

六月二十五日に資料館がオープンしてから早や二カ月余りが経ちました。八月末日までの来館状況は次の通りです。

開館日数 五〇日
入館者数 二六七九人
一日平均入館者数 五三人
団体来館数 二六団体
来館者は北海道から南は鹿児島、沖縄まで全国にわたっています。

はじめの一カ月は一日の平均入館者数は七〇人でしたが、後半は三八・五人と減少しております。これは夏休みにはいったことと、台風による天候不順の影響によるものと思われまます。九月八日までに発生した台風一四のうち、七つまでが本土に上陸したため、毎日のように雨が降り、資料館も開店休業のような日もありました。これからは天候

も回復し、団体など来館者もふえるものと期待しております。

今まで来館された団体は全国友園カラオケ交流会参加者一同、東村山社会福祉協議会、清瀬市第三小学校四、五年生(七四人)、横浜共立学園(六〇人)、韓国救らい協会(二五人)、茨城大



資料館西側のコスモス畑

正正大学、長野県議会社会衛生委員、淑徳短期大学社会福祉学科、日本弁護士連合会、天理大学成人会、横浜福祉専門学校、田園調布雙葉高校、東大和市共同作業所みんなの家、東村山・桜華女子高校、市内秋津町福祉協力会、日本らい学会、コ・メデイカル芸術集会参

志野病院看護学校、米子病院附属看護学校、杏林大学附属看護専門学校(二回・一一八人)、甲府市花みずきの会、船橋看護専門学校などです。
療養所関係では栗生楽泉園自治会が七月(二八人)、九月(二二人)と二回、駿河療養所自治会が九月(一六人)、神山復生病院(一〇人)と、それぞれバスで観覧に訪れており、これからは松丘保養園、菊池恵楓園との親善交流もあり、個人来館者もふえるものと思われまます。

一階の(全国ハンセン病療養所案内)の電光盤で説明する「各園の沿革」と、二階展示コーナーの説明「先駆者たち、事件と人物、文学に生きる」と「年表」の三点セット(八〇〇円)を受付で販売しておりますが、時間的に余裕がなく、ゆつくり見られない人

好評 「資料セット」

胡婦人会(四〇人)、全生園看護学校、愛知県議会議員

大正大学、長野県議会社会衛生委員、淑徳短期大学社会福祉学科、日本弁護士連合会、天理大学成人会、横浜福祉専門学校、田園調布雙葉高校、東大和市共同作業所みんなの家、東村山・桜華女子高校、市内秋津町福祉協力会、日本らい学会、コ・メデイカル芸術集会参

「ハンセン病」と「世界のハンセン病の分布状況」の説明と表があり、二階の展示場には「ハンセン病の医学的解説」と治療薬、アルマジロなどが展示してありますが、これらを熱心に見る人も

「ハンセン病」と「世界のハンセン病の分布状況」の説明と表があり、二階の展示場には「ハンセン病の医学的解説」と治療薬、アルマジロなどが展示してありますが、これらを熱心に見る人も

「ハンセン病の知識」のわか

「ハンセン病の知識」のわか

来館者の声

差別は無知から 住民への理解を

学生 21歳(女)

卒論でハンセン病をとりあげるのに、これからもちよくちよく来ると思っています。事前に文献をいくつか読んでいたので、この病気の悲惨な歴史はある程度知っているつもりですが、この資料館を訪れて初めてハンセン病のことを知った人は、その歴史の重さをどう受けとめるのだろうか、と思いました。

学生 20歳(女)

窒息しそうな気がしました。人として扱われないことは予算の関係で五体だけが置かれています。病棟や不自由寮の付添看護に行く人夜になると婦人寮へ枕を抱

“雑居部屋”

えて泊まりに行く。通い婚の時代でもありません。この雑居部屋には、当時支給された着物を着たマネ



一室定員8人の雑居部屋

から。よく知りよく学ばねばなりませんね。

小学四年

10歳(男)

昔の人はたいへんで、きずだらけだと思いました。とつてもたいへんだったと思った。

44歳(男)

こちらに住んで15年、感染しないと確信するまで時間がかかりました。今こうして救済のために活躍された方々の足跡を見て、今以上に周囲の住民への理解を私も働きたいと思

ます。近くの小中学生、高校生にも見学させ充分説明してやれば、福祉的な意識も目覚め、豊かな心も育つのではないかとも思いました。

会社員 25歳(女)

長い歴史があることを知りました。芸術面などでい

ろいろな専門家がいます。に思います。一時間ではとても見まわれません。また来ます。(4面へつづく)

資料館運営委員会

- 館長 大谷 藤郎
- 運営委員長 成田 稔
- 運営委員 村上 國男
- 石塚 邦夫
- 大和田喜一
- 鈴木 修幸
- 山田 義信
- 平沢 保治
- 大竹 章
- 山下 道輔
- 佐川 修

資料館の

ゑはがき

「テレホンカードか、ゑはがきはないのか」との要望に応じて、資料館では今ゑはがきを販売すべく準備をすすめています。

内容は資料館の正面玄関

二階の各展示風景など、ハンセン病資料館独特のものです。くわしくは次号でお知らせします。

苦難な歴史を知り

いたたまれない思い

主婦 55歳(女)

わかりやすい陳列形式です。あらためていろいろなことを知りました。

学生 20歳(女)

資料の多さにおどろきました。もっと沢山の人の見ていただきたいです。開館時間をもっと長ければ……と思いました。

学生 18歳(男)

今まで知らなかった長い苦難の歴史を知り、いたたまれない思いがした。展示を見るだけでなく実際に話をしてみたいと感じた。

学生 17歳(女)

人権を奪われ苦しい日々歴史を歩んできたハンセン病の方々の苦しみをわずかではありますが、かいま見れた気がします。特に印象

深かったのは様々なお医者様、宗教家の方々の活動です。彼らは人間が生きにくい上で何が必要か……それが『愛』であることを確信していたのでしよう。

委託販売書籍紹介

会社員 26歳(女)

ハンセン病を救済する等の施設内ですら、昔は差別が行われていたことを知り驚いた。そのような差別が現在ではエイズ患者に対して行われる可能性がある中で、このようなことを許してはいけないと強く思った。

▼松丘保養園

銀鱗の歌 滝田十和男

木洩れ陽の森 同

木洩れ陽のうた 同

▼栗生楽泉園

点字とともに 金 夏日

喜雨 句集 白井春星子

石と杖 句集 村越 化石

野ざらし 沢田 五郎

▼多磨全生園

全患協運動史 全患協

俱会一処 入園者自治会

生まれたのはなんのために

松木 信

漂白の日に 國満 静志

むさしの怨歌 芳葉 郁郎

花の軌跡 前編 同

花の軌跡 後編 同

不幸な楽園 同

望郷 句集 小島 宗子

夢の花 句集 吉田 香春

▼駿河療養所

いのち豊かに 大日向 繁

目と手を借り手の旅 夏野 三郎

▼長島愛生園

隔絶の里程 入園者自治会

小川正子と愛生園 名和 千嘉

死にゆく日にそなえて

森田 竹次

その日 甲斐 八郎

サンルームの風 同

依田照彦歌集 長島短歌会

死角の島 北田由貴子

この島を 同

天のてのひら 太田 正一

石あたたかし 福岡 武

一病息災 田井吟二桜

国籍は天にあり 谷川秋夫

ななかまど 中江 灯子

冬銀河 同

風光る 太田 正一

七草 川柳七草会

露七彩 青山 蓮月

白い波紋 島村 静雨

小泉雅二歌集 小泉 雅二

盛岡康行遺歌集 森岡康行

海鳴り 句集 辻村みつ子

砂漠の星座 詩 唐沢 隆

花を活ける女 小森 義夫

▼邑久光明園

地面の底がぬけたんです 藤木 とし

▼大島青松園

日常 詩集 塔 和子

花なり人も 吉田美枝子

遠かもめ 句集 同

▼菊池恵楓園

天涯の座 句集 増 葦雄

青天 歌集 入江 章子

山もみじ 山口 秀男

黒き檜の森 畑野 むめ

小岱の山 青木 伸一

森の窓・四季 随筆 内海 俊夫

▼星塚敬愛園

名もなき星たちよ 自治会

埴輪童子 中村 安朗

ハレルヤ 南 文子

恵に生かされて 恵生教会

楡のした道 神山 南星

火山地帯 文学同人誌

狂いたる磁石盤 川野 順

▼奄美和光園

光仰ぐ日あるべし 50年史

▼沖縄愛楽園

命ひたすら 50年史

選ばれた島 青木 恵哉

十五夜月 松岡 和夫

▼その他

現代のステイグマ 大谷 藤郎

来館のご案内

開館時間 午後一時より 四時まで

休館日 毎週月・金曜日

・団体の場合は事前にご連絡下さい。

資料館だより 第二号は 明年一月となります。